

製本のススメ

Vol. 99

蒸し暑くなってきましたね、雨は紙の大敵！印刷も製本も紙の状態には気を使います。でも、雨の景色はまた趣があり、雨粒の残る青葉や紫陽花の美しさは格別です。

前回に続き『**今更 聞けない**』話②

さて前回 アジロ綴じと無線綴じについて製本加工の違いをお話しました。**アジロと無線は違う**という事に気づかれた方も多いのではないのでしょうか。実際当社へ発注される冊子の大半は[無線綴じ]の指示ですが、殆どの刷り本はアジロ綴じ仕様になっています。出来上がると見分けは難しいですね。

前号にも書いたように、アジロ綴じの場合には、紙折の段階で刷り本に切れ目を入れながら折っていますので、表紙を接着する際に背を荒らす必要が無いので（背は切り落とさない）**刷り本の背になる部分にドブは付けません。**

反対に無線綴じでは、背に切り込みを入れて背を荒らしますので、**断ち落としのドブが必要です。**多く場合1ミリ～2ミリ程度カットしますので**ドブ幅は2～3ミリ**です。（ここに2～3と緩みがあるのは、本文中のデザインや、冊子の厚み等でノドの開き具合が変わるためです）しかし、それほどデザイン重視でなければ、殆どが無線綴じとして加工が進んでいるのが現状です。本の形状にも流行があるようで、最近では背に角を出すのが主流の為 アジロよりも無線の方が角を出しやすく、好まれているようです。

さて注意点が一つあります。**印刷の一部を外注に出す際には、念のためノド部分のドブの有無は指示してください。**特に16頁などの大台で書籍印刷を手掛ける会社ではアジロと無線の印刷区別が明確です（当たり前ですが）うっかりと無線綴じの指示で印刷を頼むと、ノド側にドブが有り、自社での印刷はドブなしという状況になり、またその報告無しに製本をしてしまうと、中身のバランスが悪い本が出来上がってしまいます。



Teabreak

さてこれまた前号に引き続きです。ショウブ(菖蒲)はサトイモ科で、花は株元近くにつきますが殆ど目立ちません。葉の形がアヤメにそっくりなので、古くは「あやめ草」と呼ばれたそうです。葉や根茎に強い香りがあり菖蒲湯に使われるのは、アヤメ科の花菖蒲ではなく、サトイモ科の菖蒲です。そういえば、以前 ハナショウブの葉をお風呂にいれた事がありましたが、全く匂わず鮮度が悪いのか？と思った事を思い出しました。種類が違うのですね

（勉強になったわ）

by (株) 井関製本